

問 60 誤嚥を防ぐための食事介助で適切なものを一つ選びなさい。

1. パサパサした食べ物を準備する
2. 患者の体位は、頸部後屈させ下顎を挙上させる
3. 食物を口に運んだスプーンは上方へ抜き取る
4. 飲み込んだのを確認してから、次の食物を口に入れる。

問 61 食事介助について正しいものを一つ選びなさい。

1. 時間がかかっても、食事の摂取量を確保することが大切である
2. 口腔期にのみ障害が認められ、咽頭通過に問題が無い場合、一口量を多くすると良い場合がある
3. 食事の見た目や味は嚥下機能に影響を及ぼさない
4. 座位での食事が最も食べやすい
5. エプロンは、衣類の汚れを防ぐためなるべく顎の下で止めるようにする

問 62 嚥下障害患者の食事について誤っているものを一つ選びなさい。

1. 液体でむせる場合には、なるべくトロミを強くする
2. ゼラチンゼリーは体温で溶解する
3. 口腔への取り込み障害がある場合、自助具が有効な場合がある
4. 一般的に口腔期障害では、液体の摂取が難しい
5. 意識が覚醒していない場合、誤嚥のリスクは高くなる

問 63 認知症患者の食事場面において誤った対応を一つ選びなさい。

1. 食器と食材のコントラストをはっきりさせる
2. 一つの食器にまとめて盛り付ける
3. 小鉢に少しずつ盛り付ける
4. 食形態は飲込みやすいミキサー食が良い
5. 食事以外の物をテーブルの上に置かない

問 64 口腔ケアで適切なのはどれか一つ選びなさい。

1. 歯肉出血があっても実施する
2. 咳嗽のできない患者には禁忌である
3. 総義歯の場合、義歯の洗浄のみでよい
4. 経口摂取をしていない患者には不要である

問 65 口腔ケアで適切なものを一つ選びなさい。

1. 誤嚥性肺炎の予防のためにも徹底してきれいにするのが大切である
2. 嚥下障害患者の場合、誤嚥のリスクを避けるため水は使わない
3. 口腔過敏がある場合の脱感作は前歯部歯肉からおこなう
4. 口腔ケアに対する拒否がある場合、開口器を用いて開口を保持しケアを実施する
5. 口腔ケアを食事前に行う事は誤嚥性肺炎のリスク軽減に繋がる

問 66 次のうち口腔ケアの目的として誤っている物を一つ選びなさい。

1. 唾液分泌の抑制
2. 口臭の改善
3. 誤嚥性肺炎の予防
4. 歯周病の予防
5. 食欲の増進

問 67 嚥下訓練について誤っているものを一つ選びなさい。

1. プリンやヨーグルトは嚥下が容易なので嚥下訓練に適している
2. 汁物やお茶などは増粘剤を溶かして用いると良い
3. 体温と同じ温度の食べ物は嚥下反射をおこしにくいので嚥下訓練には適している
4. のどのアイスマッサージは嚥下反射を誘発するのに有効である
5. 横向き嚥下により咽頭に残留した食塊を除去することができる

問 68 嚥下訓練で正しい組み合わせはどれか選びなさい。

1. タ行、ダ行の構音訓練 — 舌による食塊の移送
2. プッシングエクササイズ — 呼吸と嚥下のリズム
3. カ行、ガ行の構音訓練 — 声門閉鎖
4. 顎引き嚥下 — 口腔内保持機能
5. 息こらえ嚥下 — 呼吸と嚥下のリズム

問 69 気管カニューレ装用患者の嚥下訓練について正しい組み合わせを選びなさい。

- a. カフの過膨張は食塊の通過を制限しない
- b. 吸引を頻回に行う
- c. カフ無しカニューレは誤嚥の可能性はある
- d. カニューレの種類の違いは嚥下機能に影響を及ぼさない
- e. カニューレの交換を頻回に行う必要がある

1 (a b) 2 (a e) 3 (b c) 4 (c d) 5 (d e)

問 70 口腔の自浄作用と関係があるものを一つ選びなさい。

1. 唾液
2. マッサージ
3. フロッシング
4. ブラッシング
5. 洗口

問 71 下記症例において、最も可能性の高い診断名を一つ選びなさい。

- ・75歳男性。
- ・慢性胃炎、境界型糖尿病でI病院に定期的に通院中。
- ・最近お茶漬けを食べている時に咽ることが多くなったので診てほしいと外来受診。
- ・検査結果：
 - ・口腔環境良好
 - ・呼吸数30回/分
 - ・鼻咽腔閉鎖機能：良好（不全なし）
 - ・構音運動機能：良好。
 - ・嚥下機能水飲みテストでは3mLの水を3回に分けて嚥下
 - ・ムセ(+)
 - ・フードテストでは5-7回に分けて嚥下
 - ・VF所見にて食道入口部に食塊の残留あり
 - ・脳梗塞の既往なし。
 - ・BP106/70mmHg
 - ・喫煙歴16本/日

1. 脳梗塞
2. アルツハイマー型認知症
3. ALS
4. 骨棘
5. 廃用性の機能低下

問 72 下記症例において、不適切と思われるアプローチの組み合わせを選びなさい。

- ・78歳女性。
- ・自宅で倒れているところを発見。救急車で病院に搬送される
- ・診断名
 - ・左側大脳半球広範囲の脳梗塞
 - ・右片麻痺、失語症、嚥下障害
 - ・車椅子移乗可能
- ・VF所見
 - 口腔にためて送り込みできず、しばらく口腔内に保持。口唇から流出あり。
 - 咽頭に送り込まれた食塊の嚥下は可能。誤嚥は認めない。

- a. 座位耐性獲得を図り、口腔ケアを進める
- b. VF上誤嚥はないがリスクは高いので、一切経口摂取は禁じる。
- c. リクライニング位での経口摂取を検討する
- d. 失語症があるので訓練はあきらめる
- e. 発熱がある日は経過を見ながら、舌の他動訓練を進める

- 1 (a c) 2 (a d) 3 (b e) 4 (b d) 5 (c d)